

岡山市子ども・子育て会議 第5回就学前教育・保育部会

日時：平成26年2月24日（月）13:30～16:00

場所：岡山市職員研修所（ほっとプラザ大供内）3階 第3研修室

開会

資料確認

議事

・成立確認

委員 14人中12人出席により、過半数を充足し、成立を確認。

・「公立幼稚園における3歳児教育のニーズについて」

事務局 資料1「子育てに関するアンケート調査 報告書」を説明。

委員 岡山市としてこのアンケート結果をどのように見るのか。

事務局 保育園・幼稚園に通わせていない方の意向を掴むことが趣旨。公立幼稚園への希望として、半数が4歳児から、半数が3歳児からの入園を希望している。その他、給食や8時から16時の開園などのニーズがあることを掴んでいる。ただ、地域ごとに分析できていない。

委員 他のアンケートでも同じような結果が出ている。この結果を活かしてほしい。

委員 今年度も3歳児は抽選が行われ、入れなかった方がいた。そのようなことがないようにお願いしたい。

会長 要望ということで。他に意見は。

委員 これを30の地域ごとに分析することはできないのか。

事務局 次回までに集計結果を提出する。

・「子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」について」

事務局 資料2、資料3、参考資料を一括説明。

資料2「市町村子ども・子育て支援事業における「量の見込み」算出等のための手引き」

資料3「「量の見込み」の算出方法について(案)」

参考資料「小学校区別将来就学前人口推計（試算／平成32年までの年別）」

追加資料1「「量の見込み」(案)年度別集計一覧表」

委員 量の見込みを出しているが、岡山市としてこれをどのように考えているか。

事務局 今後、約3,700人の方が新たに入園を希望されることを想定。これは、岡山市全体の施設で考えると足りているが、地域ごとに考えると整備が必要。

委員 現在、入園できずに保留している方への対応はどのように考えているのか。

事務局 直ちに対応できるかは疑問。今後、地域ごとで、民間活力を活用しながら受け入れ枠を拡大していきたい。公立施設も活用方法を決め、整理でき次第、対応していきたい。なるべく、今お困りの方へも対応していきたいとは考えている。

・「施設選定における基準（試案）について」

会長 資料4「公立施設一覧表（試案）」だが、前回、選定基準1,2について、それぞれ持ち帰り、検討するとなっていた。これで行くか、これに付け加えるか話し合う。まず、選定基準1,2に代わる基準の提案はないか。

委員 選定基準1は保育園が、選定基準2は幼稚園が当てはまらないことが多い。このあたりはどのように考えていけばいいのか。

事務局 現状を加味しての基準ではない。あくまで、幼保連携型認定こども園として整備するにあたり、理想を挙げている。

会長 エアコンが設置されていなくても、今後設置することを前提に候補に挙げることはできるのか。

事務局 無いものは整備するが、あるものを活用するというのは大前提。その次に無いところの取扱いを審議してほしい。

会長 現在、これらの基準を満たすものを優先的に候補としてはという提案であり、合致するものが無い場合、新たな考え方で選定していくということでもいいか。

委員 ここで幼保連携型認定こども園として整備する施設を決めてしまっているのか不安を感じる。

事務局 ここで議論しているのは、今後地元へ入るための案。地元からの意見で変わることもある。話の糸口として、案を示してはどうかという提案。

委員 最終決定はどこでどのように協議されるのか。

事務局 予算も絡むため、最終的には議会で承認を得ることになる。

委員 予算にはどのようなものが含まれるのか。

事務局 運営費、施設整備費、備品費等が大きいものになると考えている。

委員 選定基準には優先順位があるのか。

事務局 優劣は想定していないが、この選定基準で行くか議論の必要がある。

会長 選定基準1,2で行っていいか。その他加えるべきものはあるか。

委員 選定基準には駐車場も考慮してほしい。

委員 施設の耐震化・老朽化への対応はどのように考えているのか。

事務局 すべて同時に行うことは難しいため、優先順位を付けて整備していきたい。

委員 現在、定員を超えて受け入れている、定員を割っているといった状況は加味しなくていいのか。空いている施設を有効活用というのが趣旨ではないのか。

事務局 施設が足りないところは整備していくことが前提になっているが、定員の弾力化については国から示されていない。

委員 地元の子どもが地元の園に通えるように整備してほしい。

会長 要望ということで。各委員から新しい選定基準を提案するのは難しい様子。事務局から何か提案は無いか。

事務局 施設型給付を考慮に入れ、在籍園児が20人未満の状況が続いている施設は、候補から外すというのはいかがでしょうか。

委員 具体的にどこが該当するのか分からないと話ができないが、確かに、子どもが少ないところが選定から外れるということも有りでは。ただ、その結果、公立施設が全く無くなる地域が生じないことは確認したい。

- 事務局 区域内の施設がすべて 20 人未満であるところはない。
- 会長 今、3 つ目の基準の提案があったが、選定基準 1,2 と新たな基準について、次回、事務局はまとめた案を提示してほしい。各委員は持ち帰り、それぞれ次回議論できるよう準備してほしい。
- 委員 今後の議論のスケジュールを教えてください。
- 事務局 事業計画は夏あたりには決める。3,4 月には目安がほしい。必ずこの時期というわけではないが、公立施設の使い方が決まらなければ、他の確保策をとるまで。
- 委員 候補が 2 つあれば 2 つ示してもいいのか。
- 事務局 2 つ示してもいいが、実際、どちらを優先的に整備するかは決めてほしい。
- 委員 幼保が近くにあるところは大切に扱ってほしい。
- 委員 保護者のニーズも加味して選定してほしい。
- 委員 一般市民には、岡山市の方向性や幼保連携型認定こども園、地域型保育事業など、全く分からないまま進められている状況に問題意識を感じる。広報をしてほしい。
- 委員 30 の地域に、それぞれ保育のニーズ、学校教育のニーズ、子育て支援のニーズがイメージできるような資料がほしい。10 年先を見据え、公立幼保連携型認定こども園をどこに整備していくのがいいのか考えてほしい。
- 会長 要望ということで。
- ・「その他」
- 委員 次回の会議の日程をホームページに掲載してほしい。会議の時間設定も委員の事情を考慮してほしい。
- 会長 要望ということで。
- ・閉会
- 次回会議 3 下旬の予定。時間、場所などは後日連絡。